

Vol. 49
2022 WINTER

LINKAGE

[繋ぐ]

愛でる Special Issue:

静かな存在感を放つ 江戸の伝統技法「唐紙」

から かみ

拓く 持続可能な社会実現に向けた
環境負荷の低い2つのマテリアル

PAPER TOPICS 紙でできたブック型のフラワーベース
「Flowery Tale」／ほか

国際紙パルプ商事(KPP)が発行するTSUNAGU(繋ぐ)は“紙の魅力再発見”をテーマに、紙と文化・紙と事業・紙と人を「繋ぐ」広報誌です。

愛でる P01

静かな存在感を放つ
江戸の伝統技法「唐紙」

先どる P06

スマートフォンで操縦できる
新感覚の“紙飛行機”

拓く P07

持続可能な社会実現に向けた
環境負荷の低い2つのマテリアル

PAPER TOPICS P09

紙でできたブック型のフラワーベース
「Flowery Tale」／ほか

伝える P11

反骨のジャーナリストが綴った
深い情を感じさせる手紙

訪ねる+ P13

天草キリシタン文化を今に伝える
「天草コレジヨ館」

深める P14

KPPグループの最新ニュースを
キャッチアップ

訪ねる P15

新たなコミュニケーションを生み出す
注目のブックカフェにフォーカス

作る 付録

サイズを3段階に調節できる
「寅柄 カップスリーブ」

静かな存在感を放つ 江戸の伝統技法「唐紙」

唐紙とは、襖や壁紙、屏風や衝立などの上張りとして用いられる、多種多様な文様が摺られた装飾紙のこと。柔らかな光を受けて上品に輝くその優美さには目に障らない静かな存在感があり、寺院や茶室、伝統的な和室のしつらいとして、古くから日本人の生活空間を彩ってきました。株式会社 唐源ついでの小泉幸雄さんは、国選定保存技術保持者に認定される唐紙づくりの第一人者です。その確かな手仕事には、本物をつくり続ける職人の気概と、江戸から続く伝統技術を次世代へと受け継いでいく使命感が宿っていました。

唐紙(版木押し)の制作工程



05

見当を目安に、版木のうえに和紙を静かにおろしたら、手のひらで撫でるように摺り、和紙に文様を写し取る。



01

接着剤の役割を果たす布海苔(海藻の一種)を炊いて溶かし、雲母や胡粉、顔料などと指で混ぜて絵具をつくる。



06

紙を送りながら版木を5〜6回合わせ、文様が連続するように仕上げる。二度摺りの場合は、襖1枚につき10〜12回摺る。



02

平刷毛を使って淡い地色を引く「具引き」という作業。1度塗り終えた和紙を乾かし、もう1度塗ることで色ムラをなくす。



07

全体の摺り上がりを確認したのち、自然乾燥させる。工房内には出荷を待つさまざまな色柄の美しい唐紙が並ぶ。



03

曲輪の木枠に布を張った大きな篩(ふるい)を用意し、乳鉢で調合した絵具を刷毛でまんべんなく塗る。



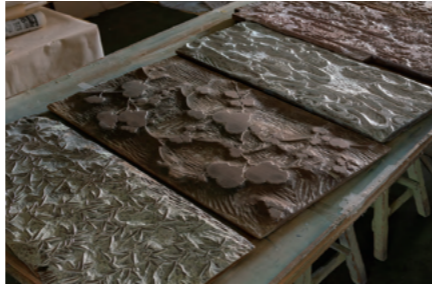
08

普遍的で洗練されたデザインと和紙の温かみが融合した、味わい深い1枚の襖紙が完成。



04

篩を版木にばんばんと軽く押しつけながら、絵具を付ける。篩を使うことで絵具を均一かつ、効率よく移すことができる。



3×6判(約90×180センチ)の紙が生産されたことで、東京近郊の唐紙に用いられる版木は90センチ以上の大きさに。



切り餅と呼ばれる小型の版木。組み合わせ方次第で、多様な文様を生み出すことができる。



①③雲母*とウコンを混ぜた絵具で、椿や梅、牡丹や菊、などでしこなどの「百花」をあしらった人気の文様を摺る小泉幸雄さん。②唐紙の種類や注文内容に応じて、形状や面積の異なる刷毛を使い分ける。④版木に絵具をつける。絹絹や寒冷紗(かんれいしゃ)を張った篩(ふるい)。⑤唐源が制作した、雲母の上品な輝きを放つ襖。

1枚1枚、手で作るからこそ、奥深い美しきや味わいが生まれる。

心地よい静寂に包まれた工房の中に流れる、
「すー、すー」という柔らかい音。大きな作業台の上を広げられた和紙の上を泳ぐように滑らかに動き続けるその手には、一切の迷いもなく、和紙に美しい文様を写しとっていきます。株式会社唐源の小泉幸雄さんは、文様を彫り込んだ版木に絵具を乗せ、和紙に文様を写し出す唐紙づくりの第一人者です。江戸の名工として知られた初代・小泉七五郎から数えて五代目、独立して創業した唐源としては三代目の当主として、嘉永年間から続く江戸の伝統工芸技術を守り続けています。「同じ唐紙でも、東京のものは京都と比べて木版摺りの版木が大きいんです。もともとは12枚の唐紙を貼って1枚の襖になる紙のサイズに合わせた小判型だったんですが、関東大震災や東京大空襲でその大半が焼けてしまっ。それから大きな和紙が漉けるようになったこともあって、東京の唐紙は大判のサイズになったんです」。小泉さんの父にあたる先代の哲さんは、焼け残った版木や襖の現物などを見本として、自らの手で江戸時代の版木を復元。さまざまな草花や波、雲などをモチーフに、おろからで流れるような構図で描かれるその文様には、「粋」を愛する江戸の町人文化の美学が溶け込んでいます。

唐紙というのは、その字のごとく中国から伝来してきた模様をついた唐紙を原点とする装飾紙のこと。その歴史は古く、平安時代に国内でもつくした砂子で飾り付ける「砂子」など、小泉さんの唐源では多彩な技法を使い分け、独特の質感や風合いのある唐紙づくりを行っています。そのうちの「唐紙づくり」の工程を見せたいいただきました。「唐紙づくりは、絵具の調合が一番難しいですよ」と小泉さん。胡粉という貝殻をすり潰してつくる微粒子状の顔料に色を加えて、接着剤となる布海苔、こんにゃく糊を水の中で混ぜ合わせたのち、その日の気温や湿度に応じて濃度や色合いを調整していきます。その絵具を使って和紙に平刷毛で地色を塗る「具引き」を行ったのち、「篩」と呼ばれる唐紙独特の道具で版木に絵具をつけます。版木のうえに手前からかぶせるように和紙を置いたら、手のひらで撫でるように和紙を摺って、絵具を転写。版木を固定したまま紙を送る作業が繰り返され、

られるようになると貴族の間に広まり、經典や和歌の料紙として、さらには寝殿造りの住居や寺院の室内装飾にも使われるようになりました。江戸時代になると、武家や町人など庶民の暮らしにまで広く浸透し、大名屋敷や神社仏閣のみならず、町人屋敷の襖や壁紙などにも用いられるようになります。「私が唐紙をはじめたのは20才の頃ですが、戦後の高度経済成長期には印刷による安価な量産品が主流となり、手仕事でつくる襖紙はほとんど減ってしまいました。それでも唐紙を復活させようという機運が高まり、国の伝統工芸品に指定されると、唐紙の工芸技術を用いた文化財の修復・復元にも携わる機会が増えていきました」。小泉さんはこれまで、浜離宮恩賜公園内にある「松の御茶屋」や長崎・出島の「オランダ商館」、富山県の雲龍山勝興寺など重要建造物の修復・復元プロジェクトに参画。唐紙師として、襖や壁、天井や屏風などに使用する唐紙を手掛けてきました。それらの実績が評価され、国・東京都指定の伝統工芸士に認定。東京都優秀技術者「東京マイスター」の認定を受けたのち、2019年には「旭日双光章叙勲」を受章されています。

つなぎ目がびたりと合った美しい唐紙が仕上がります。「1枚1枚、愛情を持って手で作っているからこそ味わいがあると思います」と言う言葉どおり、経験による勘と体に染み付いた技によって、同じものが二つとない独特な質感が生まれるのです。

使用される和紙は、鳥の子紙とよばれる厚手で光沢のある良質なものです。強く耐久性があり絵具が映えるので、古くから表装に使われているそうです。「うちでは、越前の鳥の子紙を多く使っています。でも、紙は先方が用意してくれるものを使うケースが多く、この紙にこの模様を摺ってくれという仕事が多々あるので、こだわりがないことがこだわりなのかもしれません。その紙に対して、どうしたら一番美しく仕上がるのかを考えるのも

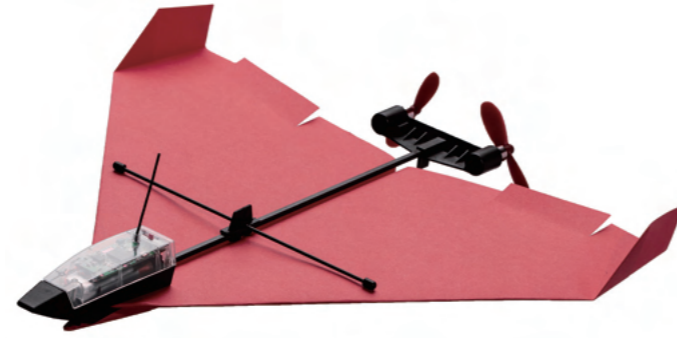
*1.雲母(うんも)……高白度の顔料として古くから襖や壁紙に使用される粉末染料。きめの細かい光沢から、きら、きらとも呼ばれる。
*2.料紙(りょうし)……文書や詩歌、經典など文字を書くために用いられる紙。

アクロバティック飛行も指先ひとつで思いのまま! スマートフォンで操縦できる新感覚の“紙飛行機”

紙飛行機は、1枚の紙があればすぐにでもはじめられる最もシンプルな工作のひとつです。しかし、よく飛ぶ機体をつくるのは意外と難しく、折り方はもちろんのこと、重心位置や左右のバランス、素材となる紙によって大きく性能が変わるので、何度も試行錯誤を繰り返した経験をお持ちの方も多しはず。そんな紙飛行機も時代とともに進化し、スマートフォンで自由自在に操縦できるハイテク紙飛行機が登場しました。この「POWERUP 4.0」は、紙飛行機に専用モジュールを取り付けるだけでラジコン操作が可能になる紙飛行機キットです。飛行の準備はとても簡単。付属のテンプレート紙を使って紙飛行機を組み立てたら、スマートフォンに専用アプリをダウンロードしてBluetoothに接続するだけ。スマートフォンを傾げるだけで左右に旋回、中央のメインボタンに触れるとその動きに合わせて上昇・下降するなど、直感的に操縦することができます。さらに、飛行機の細かい制動をチューニングすれば、アクロバティックな飛行もできるので、楽しみが尽きません。

この「POWERUP 4.0」のもうひとつの楽しみが、オリジナルの紙飛行機が作れること。翼の部分は、20グラム以下のものなら紙以外でも使用可能なので、発砲スチロールやプラスチック、植物の葉っぱなどを飛行機のかたちに切り抜けば、世界に1台しかない自分だけのラジコン飛行機を作ることができます。

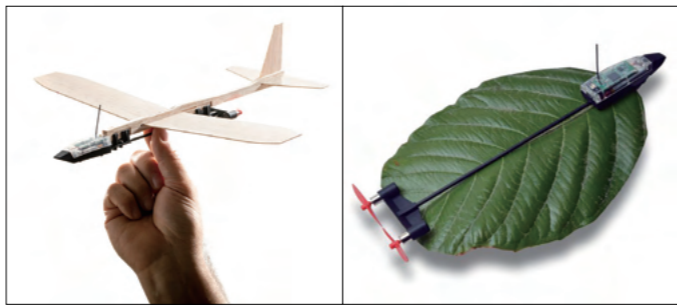
アナログの紙とデジタル技術が融合したユニークな紙飛行機。お正月や休日はマフラーを巻いて野原や公園に出掛けて、子どもの頃の思い出の続きを楽しんでみませんか?



iPhone / Androidのスマホで直感的に操作



最大秒速9メートルまでスピードを出すことが可能。Bluetoothに接続すれば、最大70メートル離れた操作ができます。



羽に使用するものは、20g以下のものであれば紙でなくてもOK!工夫次第でいろいろ楽しめます。

POWERUP 4.0 スマートフォン操縦紙飛行機キット

販売: スリー・アールシステム株式会社
HP: <https://3rrr.net/products/3r-pwr01>

本体サイズ	約233×77×36mm	重量	約17g
充電時間	約30分 (micro USB使用)	連続動作時間	約10分
通信可能距離	約70m	入力電圧/電流	約5V/0.3A
対応OS	iOS 12.0 以上/Android 5.0 以上		
付属品	交換用プロペラ×2、クロスバー、microUSB ケーブル、紙飛行機テンプレート×4 (公式サイトから追加のテンプレートをダウンロード可能)、トリムカード、クイックガイド		



①唐紙のデザインを使った和綴りノートや御朱印帳、一筆箋やしおりなどの文具・雑貨。②唐紙の文様が光と影を演出するランプシェード。③右から、社長の雅行さん、幸雄さん、三男の哲推(あきお)さん。④クラウドファンディングを活用して商品開発を進めている、自然素材だけでつくる骨壺の試作品。そのほかにも和紙製のロールスクリーンなどの商品開発も進行中。



株式会社 唐源

- 住所: 埼玉県八潮市大字大曾根1255-3
- TEL: 048-934-9438
- HP: <https://www.koizumihusumagami.com/>
- 唐源オリジナル商品は、下記通販サイトでもご購入いただけます。
- HP: <https://www.rakuten.co.jp/kirimaru/>

唐紙師の仕事です。雁皮や楮などの原料によっても扱いが異なる和紙。その特性を十分に把握したうえで、それに合った絵具の濃度や水分量などを調節できるかどうか、唐紙師の技術なのです。日本の住宅の洋室化が進み、襖の需要は年々減り続けています。「唐紙の魅力伝えるイベントなどで、子どもたちの前で話をする機会もあるんですけど、第二に、襖というものの自体を知らない子どもが多いんです。だから初めに、「温泉旅館に行ったらときに模様をついた戸があったらどう?」と、そこから話をしなくちゃならないんです。昔は盆と正月の前には襖紙を貼り替える家が多かったけれど、これも時代の流れですね。そんな危機感を抱く小泉さんには3人の息子さんがありますが、兄弟2人が父の仕事を継ぎ、親子3人で唐紙づくりの技術を高め合っています。「家業を継ぐように言われたことはないですが、幼い頃から父の仕事そばで見て育ちましたから、父の仕事を継ぐのは自然な流れでした」と話すのは、父親の仕事を手

伝いながら高校、大学に通い、唐紙づくりの腕を磨き続ける三男の哲推さん。父の動きを真剣に観察する様子に、幸雄さんも「頼もしい」と感じているそうです。かつてはどの町にも表具店があったものの、生活様式の変化を受けて唐紙をつくる同業者は次々と廃業。今では東京近郊で唐紙をつくるのは唐源のみとなったそうです。江戸時代から続く伝統工芸技術を引き継ぐために、唐源では社長を務める雅行さんを中心に、新しい視点からのアプローチを模索しています。「伝統的な技術を応用して、時代の変化に合わせてたのづくりをすること。いろいろな業種の人たちとタッグを組むことで、新しい素材との組み合わせや表現方法が生まれる可能性がまだ十分にあると思っています」(雅行さん)。江戸時代から続く伝統の技に新しい発想を加えた唐紙商品は新たな価値が付けられ、日常に供する文具やデザイン性の高いインテリアなど、その用途を広げつつあります。

material
02 ディスプレイ、サインに最適な100%リサイクル可能な板紙ボード
「Coala Air Board」(コアラエアボード)



ヨーロッパ最大の紙商、アンタリスはサイン&ディスプレイ業界をリードする存在でもあります。同社は業界のリーダーとして、環境への影響を抑えるために重要な役割を担っています。また、「責任ある調達」や「客観的評価システムによる環境に配慮した製品づくり」など、サステナビリティにも十分に配慮しています。顧客サポートの面でも、プロフェッショナルチームを組織し、すべてのお客さまに持続可能なプロダクトとサービスを提供しています。この取り組みの一環として、革新的でより持続可能な代替ソリューションをマーケットに提供していますが、今回はその一つの事例として「コアラエアボード」をご紹介します。

「コアラ」はアンタリスのビジュアルコミュニケーション関連プロダクトの自社ブランドです。コアラエアボードは紙をベースにつくられたハチの巣のような形状をしたボードで、従来の硬質合成基板^{※1}に代わる環境にやさしい製品です。アンタリスのグリーンスターシステム^{※2}においてエアボードは最もランクが

高い5つ星を獲得しました。エアボードは、100%リサイクル可能な紙製で、リサイクルが困難な化石原料に代わる、より持続可能な素材です。

コアラエアボードはクラフト加工を施した高級感のある自然な仕上がりとし、滑らかな高白色の仕上りの2種類があります。いずれも印刷品質に優れており、さまざまなデジタルインクジェット技術に適しています。エアボードはCNCカッターでの断裁が容易で簡単に折りたたむことができ、カスタマイズ可能なため、持続可能なディスプレイや看板に最適です。エアボードにはさまざまなセル構造と厚さがあるため、用途に合わせて適切な強度と剛性が選択できます。展示スタンドから美術品の設置まで、コアラエアボードは、持続可能な製品であると同時に幅広い用途にも対応可能です。

※1...プラスチックのような化石資源を使ったボード。
※2...原材料の由来やリサイクル適性などを組み合わせて、環境面から製品を評価するシステム。

発売元 **antalis** TEAM
Just ask Antalis

社名	アンタリス
本社	フランス・パリ
住所	8 rue de Seine 92100 Boulogne Billancourt France
設立年	2000年
従業員	4,150名(7月21日時点)
展開国	39カ国(ヨーロッパ、南米、アジア)
事業内容	紙・紙関連商品、パッケージ、ビジュアルコミュニケーション

下記のQRコードから、コアラエアボードについての動画をご覧いただけます。

持続可能な社会実現に向けた、KPPグループのあくなき挑戦をご紹介します

KPP Sustainable Times

限りある資源やエネルギーを循環・再生させることは、現代社会において極めて重要な課題となっています。当社は経営理念である「循環型社会の実現」に基づき、事業を通してサステナブルな社会づくりに貢献し、企業価値の向上を図っています。

material
01 持続可能な梱包資材として注目されるパルプ100%の半透明バリア紙
「Sylvicta」(シルビクタ)

プラスチック海洋汚染が表面化してきた現代において消費者意識も変化しつつあり、パッケージ素材の主流であるプラスチックからの早急な転換が求められています。紙の専門商社として循環型社会の実現をめざすKPPでは、紙素材でありながらプラスチックに似た機能性を持つ紙「Sylvicta」(シルビクタ)をご提案いたします。

「Sylvicta」は100%パルプから製造される食品接触可能な半透明のバリア紙で、1761年創業の紙メーカー、Arjowiggings(アルジョウイギンス)社が製造しています。酸素、臭気、鉱油に対してバリア性があり、パッケージされた商品の香りと鮮度の保持が可能です。また、原紙の特長を活かす使用目的に応じて加工することで機能を高めることも可能です。紙でできているため、オフセット印刷やフレキソ印刷、エンボス加工、ラミネート加工、型抜きなどの印刷加工やコーティングが可能です。

使用後は紙として生分解、堆肥化できる持続可能な包装材料なので、環境への影響を最小限に抑えつつ、包装製品としての鮮度維持に効果を発揮します。

想定される用途

- ①油性バリア性があり、食品用の薄葉紙に利用できます。
- ②シースルーデザインなので中身が見えるため、パッケージのまま商品の陳列表示可能です。
- ③熱シール加工によってパウチすることで、ピローバッグ、3方シールバッグ、小袋に加工できます。
- ④堆肥化が可能のため、環境に優しいラベルとして加工することができます。
- ⑤デザインだけでなく、さらなる加工開発余地もあり、中間素材として個別の用途に応用可能です。

Sylvictaの特長

- ①100%パルプで製造されているため、紙として生分解、堆肥化が可能です。
- ②シースルーなのでパッケージに高級感をもたらす一方、中身が見えるのでユーザーの関心を高められます。
- ③酸素、臭気、鉱油に対して非常に高いバリア性があるため、商品の香りと鮮度の保持が可能です。



(左)熱シール加工で、縦置き可能なパウチも製造できます。
(右)油性バリア性があり、プラスチック製食品薄葉紙の代替に最適です。



KPPではオリジナルの製袋サンプルを制作・配布しています。お気軽にお問い合わせください。

■商品に関する問合せ
国際紙パルプ商事株式会社
グローバルビジネス貿易業務部 貿易業務課
TEL:03-4431-7216 FAX:03-3542-4291
Mail: kpp_TradeOperationsSec@kpp-gr.com

02 石鹼を配合した携帯に便利なおしぼり 石鹼おしぼり ARAIFU

発売: 溝端紙工印刷 株式会社

<https://www.kindai-net.jp/SHOP/51231/154896/list.html>

出張先やアウトドアを楽しんでいるとき、汚れてしまった手を洗いたくても石鹼がない! そんな困った状況でも水道さえあれば簡単かつ手軽に解決できるのが、この「ARAIFU PLUS」です。ふんわりとした不織布に手肌にやさしい液体石鹼がたっぷり染み込ませてあるので、水に濡らして揉むだけでしっかりと泡立ち、ハードな汚れもやさしく落とすことができます。また、洗い流したあとに水気を絞れば、お手拭きとしても使えるのもうれしいポイント。ニューノーマル時代のアイテムとしておすすめです。



サイズ: 50×120mm(未使用時) / 260×160mm(展開時)



① ARAIFUを水に濡らす

② こすり合わせて泡立てる

③ 汚れが落ちたら水で洗い流す

④ 絞ったARAIFUで手を拭く

Voice

溝端紙工印刷 株式会社
取締役 部長 西 武彦 さん

新しい生活様式へのシフトが進むなか、しっかりと手を洗えるおしぼりアイテムとして開発したのがこの「ARAIFU」です。ポケットに入るコンパクトな個包装なので携帯しやすく、不織布1枚で手洗いから拭き取りまで完結できる商品として、多くの方にご好評いただいています。ノベルティや粗品のほか、飲食店や宿泊施設のアメニティ、災害時の備蓄アイテムとしてもご使用いただける商品ですので、ご興味のある方はお気軽にご連絡ください。

03 花束と塗り絵ポストカードをセットにしたフラワーギフト 塗り絵ポストカードシリーズ

発売: 株式会社 日比谷花壇

<https://www.hibiyakadan.com/product.html?pskunumber=TS1994>

業界の先駆者として常に新しいフラワーサービスを創造し続ける日比谷花壇。同社が昨年7月に販売を開始したギフトセットが「塗り絵ポストカード」シリーズです。季節の花束に添えられるのは、繊細な部分にまでこだわった立体的な花の絵葉書。宛名面には花のイラストに合わせた花言葉が添えられているので、贈る方を想う気持ちをより深く伝えることができます。また、絵ハガキは大人でも塗りごたえのあるデザインなので、おうち時間の充実にもぴったりです。さらに、日比谷花壇では、季節の生花が定期的に自宅など希望の場所に届く定額のサブスクリプションサービス「ハナノヒ365days」も展開中。届けられる花は、フラワーデザイナーが季節の旬の花から鮮度と品質の高いものを厳選。スイーツやお茶をセットにしたコースもあり、ライフスタイルに合ったサービスを選ぶことができます。



株式会社 日比谷花壇
広報担当者

花と紙は、花を包むラッピングと一緒に添えるメッセージカード、花を傷から保護する資材まで、とても密接な関係にあります。紙の色や質感にこだわらただけで、花やギフト自体のイメージも変わります。

Voice

01 本のように開いて使うブック型のフラワーベース Flowery Tale (フラワリーテイル)

発売: 大日三協 株式会社

<https://mecli.jp/products/flowery-tale/>



一見すると洋書のように見えるインテリアアイテム。でも、そのカバーを外してページを開くと半立体型のシルエットが浮かび上がってきます。この「Flowery Tale」は、1冊の本に3種類のシルエットパターンを収録した、スタイリッシュなブック型の花瓶です。本を開いて背表紙の間に付属の試験管を取り付ければ、一輪挿し用の花瓶として使用できるように設計されています。

花瓶のシルエットを表現するのは、幾重にも重なった硬質感のある紙。光の差す角度によって陰影が変化するため、時間の経過とともに異なる表情を味わえます。また、上下を入れ替えても使用できるので、計6種類から飾りたい花に合ったシルエットを選ぶことも。花の色合いやテイスト、部屋のインテリアに合わせたスタイリングを楽しめるのもうれしいポイントです。花を飾らない時は本のようにパタンと閉じてインテリアアイテムとして。また、本棚にもきちんと収納できるので、かさばることがありません。花瓶や台紙の表面には、撥水性・耐水性に優れた天然パルプ100%の「OKレインガード」を採用。こぼれた水滴を弾くので、濡れてしまってもすぐ拭き取れば染み込む心配もなし。日々の暮らしに豊かな彩りを添える花と、より美しく見せるための紙製の花器。無機質な部屋に心潤う2つのエッセンスを取り入れてみませんか?

大日三協 株式会社
第2販売事業部
山田 智雅 さん

Voice

1冊で3つの花瓶を楽しめるので、飾るお花のサイズや形状、その日の気分や飾るお部屋の雰囲気から花瓶をお選びいただけます。花のある暮らしを物語るおとぎ話のようにこの思いから、「Flowery Tale」と名付けました。おうち時間が増えた昨今、多くの方が花のある暮らしを楽しまれている光景を想像しながら、チーム一丸となって商品づくりに取り組んでいます。この「Flowery Tale」は、ご自身で楽しめることはもちろんのこと、お世話になった方や最近お会いできていない方など、みなさんの大切な方に温かい気持ちを届ける一助になれば幸いです。

「手紙」は語る

植村 鞆音

人間は表現する動物だというのが、手紙は人間の表現のなかでもっとも深く高貴なものだと思う。手紙は手書きがいい。眼光紙背に徹すれば、書き手の人となりが見えてくる。

第二十七回 ばばこういち

わたしが映画会社から出来たばかりのテレビ局に転職したのは昭和三十九年、二十六歳のときである。編成というセクションに配属になったが、直接の上司が馬場康一さんだった。いくらか小柄ではあったが、精神も肉体もシャープですべてにすぎなかった。転職したばかりだったから、余計にそう感じたのかもしれない。すべてにソツだらけのわたしのことを後に「目から鼻に抜けるようだった」と評されたことがあるから、人間の印象というものは時間の経過とともに変わるものかもしれない。

わたしはとてでもないこんなことはできないと思わせたのは、クイズ企画のオーディションをスタジオでやったとき、自ら司会役を買って出てみことにそれをやり遂げたことである。あとで聞いて納得した。彼はラジオ局でアナウンサーの経験があったのだ。

次に感心したのが、あらゆることに自分の意見があり、かならずそれを表現することだった。他人の話にもよく耳を傾けた。わたしたち部下はそれを見習いながら日々を過ごした。自由の気が横溢し、忖度などの入りこむ余地はなかった。しかし、出来たばかりのテレビ局は視聴率的にも収益的にも番外地が続き、馬場さんは「馬場私案」なる編成表を立案してトップに提言したりした。「馬場私案」作成に新参者のわたしは関与させてもらえなかったような気がするが、「編成」には「経営の意

が削減された。馬場さんもそのひとりだった。最初の頃には組合が主体になった解雇撤回闘争にも参加されていたような記憶がある。

驚いたのは、解雇の通告がなされた直後、馬場さんは、新しい世界を視てくると悠然、ソ連に旅立った。米ソの二極化が進んでいた時代である。逆境にありながらなおかつ前のめりの拡張主義を、わたしは自分には出来ないことと目を見張った。帰国して「ばばこういち」と姓名の表示を平仮名に変え、テレビ朝日「アフターヌーンショー」の「なっとくいかないコーナー」、著作「戦後日本をダメにした100人」など、テレビや著作で活躍したことは、まだ覚えている人がいるかもしれない。彼の反骨精神あふれるジャーナリスト魂は娘の堤未果さんに引き継がれていまも生きている。ばばさんは局を辞めた後も、ぐずぐず局で生き延びたわたしをときどき訪ねてくださり、すこしとがった企画の提案やわたしの担当する編成に先輩として意見を述べられたりした。しばしば手紙も頂戴した。「自分の果たせなかったことをあなた

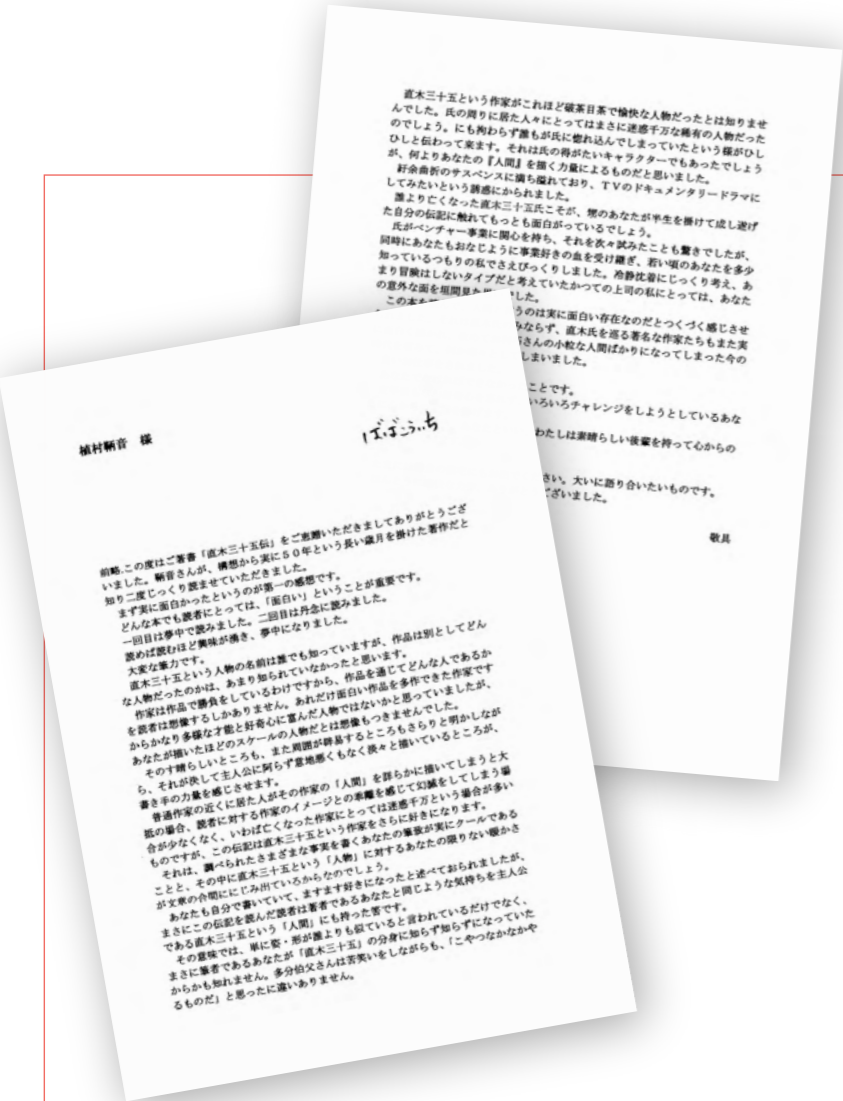
思の表現」という定義があるから、馬場さんは経営を視野に入れた番組表を提案したに違いない。

馬場さんは職場を離れるとたのしい人だった。麻雀が好きで、仕事が終わるとわれわれは連日雀卓を囲んだ。それくらいしかやることのない時代だった。わたしはその場に居合わせなかったが、仲間内の麻雀で馬場さんが一晩で十六万円の負けをつくり即金でそれを支払ったという噂も聞いた。わたしの月給が多分三万円程度の時代の話である。その頃のことでもうひとつ思い出すのは、麻雀を終えた深夜、馬場さんに誘われて仲間数人と四谷にある彼のアパートに押しかけたときのことである。わたしはそこで奥さんの江実さんに紹介され、彼女の新しく出版された詩集を頂戴し、金子光晴の「恋人よ。たうたう僕はあなたのうんこになりました」という文言から始まるうつくしい恋愛詩を馬場さん自ら書きこんだお二人の記念アルバムを見せてもらったが、数年後金子さん一家に出会いご家族と親交のできたわたしの半生をふりかえるとき、最初の出会いとなったこの記念アルバムのことを懐かしく思い出す。

わたしが入社した二年後に会社は事業を縮小することになり、大量の人員は実現している。それはまことに喜ばしい」という主旨の手紙が多かった。同じ仕事に携わったことのある人からの褒め言葉は価値を共有したことがあるだけにうれしいものである。

定年後わたしが最初に上梓して送った「直木三十五伝」を読んだばばさんの感想文はワードで綴られている。「この度は『直木三十五伝』をご恵贈いただきありがとうございます。 (中略)二回目は夢中で読みました。二回目は丹念に読みました。読めば読むほど興味が湧き、夢中になりました。大変な筆力です。(中略)この本を読んで、人間と言うのは実に面白い、存在なのだづくづく感じさせられました。それは直木氏のみならず、直木を巡る著名な作家たちもまた実に面白く描かれ、改めてお利巧さんの小粒な人間ばかりになってしまった今の時代を省みて、何か寒々としてしまいました。良いお仕事をされました。(中略)定年後もなお好奇心を忘れず、いろいろなチャレンジをしようとしているあなたに心からの敬意を捧げます」

わたしがこの手紙で育ったかどうかは分からないが、褒め言葉は一般的に人を育てる肥やしになると思う。



著者略歴
うえむらとらね
植村 鞆音 エッセイスト
小説家・直木三十五の甥、東洋史学者・植村清二の子として愛媛県松山市に生まれる。1962年早稲田大学第一文学部史学科卒業後、東映を経てテレビ東京に勤務。同局常務取締役(株)テレビ東京制作代表取締役社長等を歴任。2005年『直木三十五伝』で尾崎秀樹記念・大衆文学研究賞受賞、2007年『歴史の教師植村清二』で日本エッセイスト・クラブ賞受賞。主な著書に「夏の岬」「気骨の人 城山三郎」など。

ばばこういち

放送ジャーナリスト、評論家
1933-2010



写真提供:東洋経済/アフロ

本名は馬場 康一。1933年3月28日生まれ、大阪府出身。東北大学経済学部卒業後、文化放送、フジテレビ勤務を経て、1964年に開局した東京12チャンネル(現テレビ東京)に入社。1966年にフリーの放送ジャーナリストとなり、テレビ番組の司会やリポーターとして活躍。政治・社会問題をテーマに執筆を続け、主な著書に「戦後日本をダメにした100人」、「ニセモノ時代」、「テレビはこれでよいのか」、「視聴率競争 その表と裏」、「改革断行」、「活力高齢人」などがある。次女はジャーナリストの堤未果。



持株会社体制への移行について、検討を開始いたしました

当社は本年10月を目処に持株会社体制へと移行することの検討を開始しました。なお、本件の実施は2022年6月下旬に開催予定の定時株主総会にて承認が得られることが条件となります。

□検討の背景について

当社はグローバルシェアの拡大と、事業ポートフォリオ改革による収益の最大化を目的とした海外M&Aを積極的に進めるとともに、中国とASEANにおいては、グループ企業の再構築によるシナジーの最大化を図ってまいりました。これら海外展開への取り組みの結果、当社グループに占める2022年3月期の海外売上高比率は54%に達する見通しです。事業規模においても世界3大紙商社の一角を占める*グローバル企業として新たなステージに立つとともに、来たる2024年には創立100周年を迎えることから、持株会社体制への移行を検討することいたしました。

*当社調べ(紙商社…紙・パルプ製品およびパッケージ関連製品等の卸売を主要な事業とする専門商社)

□目的

事業規模の拡大に伴うグローバル・ガバナンスの強化とポートフォリオ改革、さらには新規事業の拡大、サステナビリティ・マネジメントの推進を目的とします。

□スキーム

当社を持株会社と事業会社とに分離し、持株会社の傘下に国内事業を統括する事業会社と、Spicers Limited(オセアニア)やAntalis S.A.S.(欧州および南米)など、各地域を統括する既存の中核会社を並列させる形で配置することを想定しています。

□スケジュール

2022年10月実施予定



古紙回収リサイクルシステム「タウンecom」を茨城県の「MITO SKY PARK」に設置

当社が展開する古紙回収リサイクルシステム「タウンecom(エコモ)」は、家庭から出る古紙を好きな時に持ち込むことで重さに応じたポイントが付与されるシステムとして全国400か所以上のスーパーなどの小売店で採用されています。このたび、小売店以外へのはじめての展開として、JR東日本水戸支社運営の多目的広場「MITO SKY PARK」に設置されました。

昨年5月、JR東日本水戸支社ビル敷地内に開業したMITO SKY PARKは、周辺住民と来街者が美味しいことや楽しいことなど水戸の魅力体験・共有できる広場としてイベントスペースや月極駐車場などが整備されています。MITO SKY PARKのタウンecomから発行されたリサイクルクーポン券は、水戸駅ビル「エクセル本館」1階と「エクセルみなみ」3階の生鮮売場での買い物にご利用できます。



設置箇所	茨城県水戸市三の丸 1-4-47 MITO SKY PARK イベントスペース内 (水戸駅北口から徒歩約7分)
利用開始日	2021年10月1日(金)
利用時間	10:00-14:00 ※土日祝日を除く

タウンecomの詳細は下記WEBサイトをご覧ください。
<https://www.kppc.co.jp/ja/ecom/town.html>



当社会長兼CEOの田辺がアファンの森を訪問

昨年10月25日、当社会長兼CEOの田辺が長野県黒姫にあるアファンの森を訪問しました。アファンの森は2020年4月に亡くなられた作家でありナチュラリストのC.W.ニコル氏が35年の歳月をかけて再生させた生物多様性あふれる森です。

2002年より一般財団法人C.W.ニコル・アファンの森財団が森の管理を行っており、当社は同財団の取り組みに賛同し2015年よりオフィシャルスポンサー契約を締結しています。C.W.ニコル氏は、最初に買った森の中で最も古くて大きな木をマザーツリーと呼び、生前から「自分が死んだらこの木の根元に眠りたい」と話していたそうです。そして現在、その場所にはメモリアルストーンと呼ばれる石牌が置かれ、遺志のとおりC.W.ニコル氏が安らかに眠っています。今回の訪問ではその場所にもご案内いただきました。

4月には3回忌を迎えることから、4月発行の本誌にてC.W.ニコル氏の想いを繋ぐ特集記事の掲載を予定しています。



(左)田辺会長兼CEO(中央)C.W.ニコル・アファンの森財団 野口専務理事 (右)同財団 森田理事長



メモリアルストーン

C.W.ニコル氏の書斎にて

RECOMMEND SPOT

天草コレジヨ館



(左)天草本イソップ物語をモチーフにした人形展示「ESOPOの宝箱」／(中)天正遣欧少年使節団が渡欧の際に使用した南蛮船の模型 (右)グーテンベルク式金属活字印刷機

写真提供:天草市立天草コレジヨ館



日本初の活版印刷による貴重な天草本のレプリカ。現代人にも馴染みの深い「平家物語」(右)と日本最初の翻訳本「伊曾保(イソップ)物語」(左)。

日本初の活版印刷機や印刷物など、 宣教師養成学校の歴史と文化を紹介

「コレジヨ」とは、ポルトガル語でカレッジを意味する言葉。16世紀末、熊本県天草の地に開校したのがキリシタンの最高学府「天草コレジヨ(天草学林)」です。この「天草コレジヨ館」は、当時の天草キリシタン文化を今に伝えるミュージアムで、1582年(天正10年)に派遣された4人の少年を中心とした天正遣欧少年使節団がヨーロッパから持ち帰ったグーテンベルク式金属活字印刷機や南蛮船模型、西洋古楽器(すべて複製)などの展示を通して、天草の地で開花した南蛮文化と使節団の足跡を広く紹介しています。また天草コレジヨでは、グーテンベルク印刷機を用いて外国人宣教師や学生たちの教科書本が印刷されました。これらの本は「天草本(あまくさぼん)」と呼ばれ、同時に出版された「平家物語」や「伊曾保(イソップ)物語」など文化的価値の高い複製本が展示されています。貴重な史料とともに、当時の日本に於けるキリスト教の歴史に触れてみませんか?

企画展 Amacusaと九州西岸のNAMBAN

長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産登録3周年を記念して開催されている企画展。九州各地から出土した南蛮貿易に関する出土品や天草本に関する史料などが一覧できます。1/30(日)には「歴史トークショー」、2/12(土)には「ギャラリートーク」を開催。お申し込みは天草コレジヨ館まで直接ご連絡ください。



天草コレジヨ館

- 住所／熊本県天草市河浦町白木戸内175-13
 - 開館時間／8:30～17:00(入館は16:30まで)
 - 入館料／一般大人:200円
高校生:150円 小・中学生:100円
 - 休館日／毎週木曜日(祝日の場合は翌日)
年末年始(12月30日～1月1日)
 - 問合せ／TEL:0969-76-0388
 - HP／<http://hp.amakusa-web.jp/a1050/MyHp/Pub/Default.aspx>
- ※感染症拡大の影響により変更になる場合があります。詳細はHPにてご確認ください。



写真提供:天草市立天草コレジヨ館

MESSAGE

16世紀、天草豪族5人衆の1人として勢力を誇った天草氏の居住地・河浦町に誘致された天草コレジヨは、ラテン語や哲学、神学などの学問や金属活字による本が印刷されるなど、当時の西洋文化の発信地として花開きました。当天草コレジヨ館はこれらの文化遺産を後世に語り継ぐ、さまざまな展示を公開しています。天草に足を運ばれた際にはぜひお立ち寄りください。

天草コレジヨ館 館長 **岡部 京美 さん**



みたかのぼ

- mitaka nova -

東京都三鷹市下連雀4-6-7

TEL 0422-90-3650

営業時間は曜日によって異なります。

来店の際には、ホームページ内にある
カレンダーをご確認ください。

月曜定休

<http://www.mitakanova.jp/>



みんなの「やってみたい」を叶える地域密着型ブックカフェ

三鷹市下連雀の静かな住宅街に佇む「みたかのぼ」は、本屋とカフェ、イベントスペースがひとつになったコミュニティブックカフェとして2019年にオープンしました。オーナーは、建築士としての本業を持つ浅野雄太さん。空き店舗をリノベーションして再生するワークショップに参加した時にこの物件と出会い、自らお店を開くことを決心したそうです。「建物の設計だけでなく、そこで生まれるコミュニケーションまで考えた場所づくりに関わる仕事が増えていく中で、いろいろな可能性を追求し試すことができる実験の場となるお店をつくれたらという思いがありました」。

新書と古書を扱う「みたかのぼ」に並ぶのは、哲学やアート、人類学など読書好きの浅野

さんのセンスが光るラインナップ。また、お客さまがみんなに読んでほしい本を「みたかのぼ」が仕入れ、その理由を書いた「オススメカード」とともに販売する「RECO BOOK」や、子どもたちが読み終えた自分の本を持ってきて、好きな本と交換できる「こうかんホンパコ」など、店内には幅広い世代に読書の楽しさを伝えるアイデアが溢れています。

一方、カフェ部門を担当する千葉 清さんは、定年退職を機に三鷹市の市民講座やボランティア活動に参加する中で、コーヒーを淹れる技術を習得。こだわりのハンドドリップコーヒーを通じて街づくりに貢献したいという思いを強くしていた時に浅野さんと出会い、共同代表としてカフェのマスターになることを決めたそうです。

「長年、自宅と会社の往復ばかりで地元を向けてこなかった私にとって、ここは新しい自己表現をする場所となっています。お店を訪れた人にとってもそうしてくれるといいですね」と千葉さん。その言葉どおり、時間単位で貸し出しをしている店内のイベントスペースでは、ギター個人レッスンやSDGsについてのワークショップ、みそづくり教室など多彩なイベントが開催されています。みんなの「やってみたい」を実現する場所でありたい。そんな二人の思いが詰まった「みたかのぼ」は、日ごとに異なる表情を見せるブックカフェとして、訪れた人の生活に彩りと豊かさをもたらす場となっています。



輸送マイルージとCO2排出を抑え、地球温暖化に配慮したライスインキを使用しています。



針金・糊・熱が不要な製本方法を採用し、リサイクルや怪我の危険へ配慮しています。



国際紙パルプ商事株式会社
KOKUSAI PULP & PAPER CO., LTD.

発行：コーポレート・コミュニケーション室
〒104-0044 東京都中央区明石町6番24号
TEL (03) 3542-4111 (代)

URL <https://www.kppc.co.jp>